氏　　名	粟井　京子
授与した学位	博士
専攻分野の名称	保健学
学位授与番号	博甲第７３１４号
学位授与の日付	令和７年　３月２５日
学位授与の要件	保健学研究科　保健学専攻　（学位規則第４条第１項該当）
学位論文の題目	Relationship between Personality Traits and Postpartum Depressive Symptoms in Women Who Became Pregnant Through Infertility Treatment （不妊治療により妊娠した女性の性格特性と産後うつ症状との関連）
論文審査委員	森本　美智子　教授　　森　恵子　教授　　髙畑　陽子　准教授

学位論文内容の要旨

生殖補助医療により妊娠し出産した女性の産後うつについては自然妊娠で出産した女性と比較して差はないとの報告がある．今回，私達は不妊治療後に出産した女性を対象に子どもの４か月健康診査受診時にエジンバラ産後うつ病自己評価票（EPDS）により評価した．また，Big Five尺度を使用して性格特性を評価し産後うつ症状との関連を検討した．EPDSスコアでは，生殖補助医療群，一般不妊治療群，自然妊娠群と間で有意差はなかった．５つの性格特性のうち「情緒不安定性」に関しては，生殖補助医療群は自然妊娠群，一般不妊治療群と比較して有意に高スコアであった．ロジステック回帰分析では,いずれの群も情緒不安定性が産後うつを疑うEPDS９点以上と関連していることが明らかとなった．自然妊娠群では結婚年数がEPDSスコアに抑制的に作用していたが，生殖補助医療群ではその傾向は見られなかった．生殖補助医療を受けた女性の産後うつのリスクを評価するためには性格特性のスクリーニングを行うことが有用であると考えられた．

論文審査結果の要旨

生殖補助医療により妊娠する女性には，うつ症状を認める割合が高いことが報告されているが，不妊治療と産後うつとの関連はよくわかっていない．本論文は，子どもの4か月健診時に自記式質問紙を用いて調査し，不妊治療により妊娠した女性の性格特性と産後抑うつ症状の関係を検討したもので，以下の成果を得ている．

1)EPDSを用いた抑うつ症状得点は，自然妊娠群，不妊治療群で差がなかった．
2)性格特性(5つの因子)のうち「情緒不安定性」は，他の群に比べ生殖補助医療群で有意に高かった．
3)性格特性の「情緒不安定性」とEPDSスコアには，いずれの群においても中程度の有意な関係を認めた．

論文は採択されているものの，変容の難しい性格特性を説明変数として用いた点，EPDSの信頼性・妥当性など，研究デザイン・本研究の意義に対する課題がある．しかし，大規模調査を実施しており，これは評価に値すると考える．ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ力や研究結果について説明する力などについても課題は残るが，審査員は，論文内容・試問を行った結果から，合格とすることを適当と認める．